

## 高層ビル火災 - 西日本防災システム

情報元 Wikipedia

1

昨今、建築物は上へ高く、高くなりつつあり、限界が無いように思えるくらい高層化しています。技術の進歩なのでしょうが、古臭い私にとって高層ビルは苦手です。なんだか落ち着きません。日本に限らず世界中で高層化しています。特に私は防災業ですから地震より**火災**が心配です！

これを社内で発言しますと、**年寄り扱い**されます。とほほほ

そこで高層ビル火災の起源ともいえるブラジルで発生した火災の豆知識を・・・その火災は**ジョエルマビル火災**と言います。この火災はブラジルのサンパウロにある25階建てのオフィスビル、**ジョエルマビル**で起きた火災です。



### 火災概略

1974年2月1日にエアコン室外機のショートが原因で出火し、227名の死者を出す大惨

事となってしまいました。もう40年近く前になるんですね

1970年代当時、ブラジルでもビルの高層化が進んでいましたが、1969年に建設が始まり1972年に完成した**25階建て**の**ジョエルマビル**もその1つでした。下階が駐車場フロアになり、その上にオフィスの入ったフロアがある構造になっていました。

中央がエレベーター棟。その左右のうち平行四辺形の棟がノースタワー、三角形がサウスタワーになっています。映像参照 入居テナントは銀行等の企業が多くを占め、近代化されたジョエルマビルはサンパウロでも一際目立った存在であったのですが、現在の基準で考えますと下記のような様々な欠陥がありました。

- ① 非常出口がなく出口は建物中央にあるエレベーター棟の階段およびエレベーターのみでした。これらが使用不可になった場合、脱出方法が無くなります。
- ② 内装に使用されていた素材が不燃性ではありませんでした。間仕切りが可燃性の木材や合成樹脂で、さらにカーテンや絨毯といったその他の内装も燃えやすい素材でしたので火災の際は火の回りが早く、しかも合成樹脂は燃えると有毒ガスまで発生する危険性がありました。
- ③ スプリンクラー設備は無く、防火扉や防火シャッター・防煙壁といった設備が不十分で延焼を食い止めるのが難しく煙が充満する危険性がありました。このように防災設備が不十分のため、ひとたび火災が起きれば大火災になる要因がありました。

そして完成から2年後、その不幸な予想が的中し、大火災が発生してしまいます。

1974年2月1日、多くの会社員が出勤していた午前8時50分頃、ノースタワー12階の窓上部に設置されていたエアコン室外機がショートして出火しました。炎はやがて窓を破壊し、12階の可燃性の内装を燃やしながら建物中央のエレベーター棟に延焼、階段の吹き抜けを通じて上階へと延焼してゆきました。階段が煙突の役目を果たしました。



西日本防災システム

NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

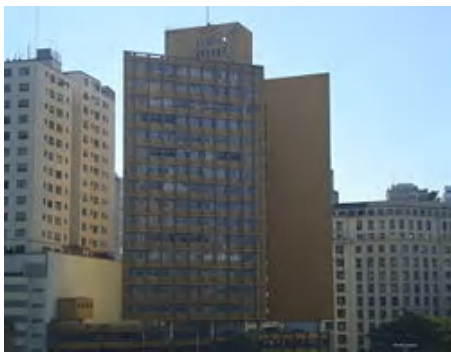


## 高層ビル火災 - 西日本防災システム

情報元 Wikipedia 2

同時に唯一の避難経路が早くに使えなくなりました。この時点では反対側のサウスタワーまでは延焼していませんでしたが、ノースタワー12階の窓から激しく燃え盛る炎は強風に煽られ、やがて14階の窓を破壊するとさらに勢いを増し、サウスタワーに延焼。そして両棟の窓伝いに延焼してビルは炎と黒煙に包まれました。消火活動が始まった時にはすでにビルは大火災となっていました。エレベーター棟の出入り口を通じ、屋上にまで火が迫っていましたが、ヘリポートがないため屋上からの救出も困難でした。最初に出火したノースタワーを中心に逃げ遅れた被災者が飛び降り始めました。消防士が**落ち着いて 飛ばないで**等のメッセージを大きな布に書いたのをはじめ、多くの地上の人々が思いとどまるように被災者に呼びかけたものの20名が転落死しました。中にはハシゴ車で避難中の被災者を上から飛び降りた者が直撃し、一緒に転落してしまう二次災害まで発生しました。火は屋頂すべての物を焼き尽くし、勢いが弱くなった所でようやく鎮火しました。この火災の死者は**227**名に上り、防火体制が不備な高層ビルは多くの死者を出す火災例の1つとなりました。

ただこの悲惨な火災を振り返るとき ある一組の母子の愛情を強く感じる出来事があります。15階でこの火災に遭遇してしまった親子がいました。その逃げ場も救助も無い状態で母親はわが子を自分の体に固定し、15階から身を投じました。助けてやりたい一念なのでしょうね！母親は地面にたたきつけられ死亡したものの、幼い子供は抱きしめられた母親の体がクッションになり、無事生還しました。自分を犠牲にしてもわが子を守った奇跡として伝えられています。



映像、情報はWikipedia より

このビルは改装され今も現存しています。  
この教訓を生かさなければダメですよー！  
多くの方が犠牲になられて、残してくれた教訓  
ですものね。必ずや生かさなければ！！  
最近の超高層ビル群を見ていると 強く感じ  
ます。 **教訓を無駄にはいかん！**

驕りや侮りは無いでしょうか？

謙虚に足元を見てみたいと思います。



西日本防災システム

N:SHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd

<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ

